都市緑地における利用者の休憩場所に対する利用心理と満足度・印象評価に関する研究

大塚芳嵩 ^{*1)}・岩崎 寛 ¹⁾

1) 千葉大学大学院園芸学研究科

摘要: 都市緑地における利用者の休憩場所に対する利用心理及び満足度・印象評価を調査することを目的とした。研究方法は対象者が緑地の利用者という想定のもと、公園来園から休憩をとるまでの一連のプロセスをアンケートにより調査した。調査項目は、休憩場所に求める要素、休憩場所を決定する際に重視した要素、休憩後の満足度・印象評価とした。調査の結果、休憩場所に求める要素は雰囲気の良いさと美観が重視され、休憩場所を選ぶ際には混雑を避けることが重視されていた。また、利用者に好まれる休憩場所の特徴として、心理的な好感度、景観、雰囲気が優れていることがわかった。

キーワード: 都市緑地、休憩場所、利用心理、満足度、印象評価

1. はじめに

現代社会はストレス社会といわれ、造園学の分野ではこの社会問題を解決するために緑地の保有する心理・生理的効果を研究している。現在では、既往研究により緑地の保有する心理・生理的効果が立証されている¹⁾。加えて、緑地の心理・生理的効果を効率的に享受するには、緑地において休憩をとることが効果的であることも示唆されている²⁾。しかし、緑地における休憩の心理・生理的効果が明らかになった一方で、現況の緑地における休憩場所は必ずしも利用状況が芳しいとは限らない。また、利用者の多い休憩場所においても設計者の意図と利用者のニーズが一致していない場合も見られる。この原因の1つに、利用者の緑地あるいは休憩場所に対するニーズなど利用者の心理(以下、利用心理とする)を十分に把握していないことが考えられる。このことから、今後緑地の心理・生理的効果を効率良く享受するには、利用者の緑地及び休憩場所に対する利用心理を把握する必要がある。

そこで本研究では、利用心理に即した緑地造成を検討することを目的として、緑地における利用者の休憩場所に対する利用心理及び満足度・印象評価の高い休憩場所の要素を明らかにすることとした。

2. 調査方法

2.1 調査の概要

本研究は、緑地における利用者の休憩場所に対する利用心理及び満足度・印象評価の高い休憩場所の特徴を明らかにすることを目的として、以下の4点をアンケート調査した。

- ① 休憩場所に対して求める要素 (※1)
- ② 休憩場所を決定する際に重視した要素 (※1)
- ③ 満足度高い休憩場所の特徴 (※2)
- ④ 印象評価の高い休憩場所の特徴 (※3)

※1 17項目から選択式のアンケート調査

※2 17項目それぞれを5段階評価するアンケート調査

※3 30項目7段階評価のSD法

2.2 対象地

調査対象地は東京都千代田区にある都市公園の一区画とした。調査対象地として当該地を選択した理由は、休憩場所として多数の同型ベンチが設置されていたこと、当該地はベンチの配置、植栽、空間デザインに至るまでほぼ完全にシンメトリーに設計されていることが挙げられる(写真-1)。このため、一般的な緑地にありがちな空間的なランダム要素を取り除くことが可能になると考えられた。なお、当該地には計60脚のベンチが規則正しく設置されている。本研究ではベンチ6脚を1つのグループとして見做し、これを1つの休憩場所として調査を行った。以下に対象地の略式図を記載する(図-1)。

写真-1 対象地の景観

* 連絡先著者: E-mail : y.otsuka@chiba-u.jp 〒271-8510 千葉県松戸市松戸 648

図-1 対象地の略式図

2.3 調査日程と対象者

調査は2011年10月28日、11月4日、11月10日の計3回、いずれの日程も13時から実施した。

調査対象者は、千葉大学園芸学部所属する学生12名（男性5名、女性7名）とした。

2.4 調査手順

本研究は、調査対象者が公園利用者という想定のもと、公園来園から休憩をとるまでの一連のプロセスをアンケート調査するものとする。実験手順を以下に記載する。

- ①事前に休憩場所に対して求める要素を記入
- ②対象地にて休憩場所を選択する
- ③休憩場所を決定する際に重視した要素を記入
- ④対象者が決定した休憩場所にて休憩後、満足度・印象評価を測定
- ⑤実施者が指定した休憩場所にて休憩後、満足度・印象評価を測定（④と⑤は順不同）
- ⑥2つの休憩場所のうち、より好ましい休憩場所を解答する
- ⑦満足度・印象評価のデータを対象者の好みの休憩場所と好みでない休憩場所に分けて統計解析を行う

3. 結果と考察

3.1 休憩場所に対して求める要素

休憩場所に対して求める要素をアンケート調査した結果（図-2）、『雰囲気』100%、『清潔感』91.7%、『ベンチの座り心地』91.7%、『景観・デザイン』83.3%、『日差し』83.3%などが上位に挙げられた。これらの結果から、利用者が休憩場所に求める要素は、雰囲気の良いさと美観が重要であると推察された。また、半数以上の対象者が『日差し』、『音』、『匂い・香り』、『空気・風』などの要素を解答したことから、五感に関する要素もニーズがあると考えられた。

図-2 休憩場所に対して求める要素

図-3 休憩場所を決定する際に重視した要素

3.2 休憩場所を決定する際に重視した要素

休憩場所を決定する際に重視した要素をアンケート調査した結果（図-3）、『他の利用者との距離感』83.3%、『雰囲気』75%、『清潔感』75%、『植栽』66.7%、『景観・デザイン』66.7%などが上位に挙げられた。これらの結果から、利用者が実際に休憩場所を決定する際に重視した要素は、まず何よりも混雑を避けることが第一に挙げると考察できた。次に重要視される要素として、休憩場所の雰囲気と美観に関する要素が挙げられた。これら以外にも『植栽』、『景観・デザイン』が上位に挙げられたことから、休憩場所を決定する際には植物の要素も少なからず影響を及ぼすと推察された。また、休憩場所に求める要素の結果と比較して多くの要素が割合を下げているにもかかわらず、『他の利用者との距離感』、『植栽』、『ベンチまでのアクセス』の割合が上昇した。この結果から、休憩場所を決定する際には空間的な制約の要素と植物の要素が影響力を強めると考えられた。

3.3 休憩場所における満足度

休憩後の満足度を対象者の好みの休憩場所と好みでない休憩場所に分けた結果をウィルコクソンの符号付順位と検定にて統計解析を行った（図-4）。この結果、『空気・風』、『ベンチの座り心地』、『雰囲気』の項目で5%有意差、『景観・デザイン』の項目で1%有意差がみられた。このことから、満足度の高い休憩場所の特徴は雰囲気が優れていること、また特に景観が優れているが明らかになった。

図-4 休憩場所における満足度

3.4 休憩場所における印象評価

休憩後の印象評価を対象者の好みの休憩場所と好みでない休憩場所にわけた結果をウィルコクソンの符号付順位と検定にて統計解析した(図-5)。この結果、『殺風景な-風情のある』、『閉鎖的な-開放的な』、『混雑した-空いた』、『疎遠な-身近な』、『重い-軽い』、『つまらない-楽しい』、『不安な-安心な』、『嫌いな-好きな』の項目で有意差がみられた。この結果から、印象評価の高い休憩場所は大きく3つの特徴を有していると考えられた。1つ目は『嫌いな-好きな』、『つまらない-楽しい』、『不安な-安心な』といった“心理的な好感度”の要素、2つ目は『殺風景な-風情のある』、『閉鎖的な-開放的な』といった“景観”の要素、3つ目は『混雑した-空いた』、『疎遠な-身近な』、『重い-軽い』といった“雰囲気”の要素であった。これらを踏まえると、印象評価の高い休憩場所は“心理的な好感度”、“景観”、“雰囲気”といった要素が優れていることが推察された。

4. まとめ

今回の調査結果から、休憩場所に求められる要素は雰囲気の良いさと美観であることがわかった。また、休憩場所を決定する際には、混雑避けること、雰囲気と美観が重要な要素であるとわかった。しかし、今回の調査では休憩場所に対して求める要素と休憩場所を決定する際に重視する要素は必ずしも一致しなかった。この原因は、休憩場所に対して求める要素は漠然としたイメージや休憩場所に求める理想であるに対して、休憩場所を選択する際には混雑などの空間的な制約を受けるため、重視する要素の優先順位が変化することが考えられた。この傾向は特に『他の利用者との距離感』の項目で顕著に表れた。

満足度・印象評価の結果から、好まれる休憩場所の特徴として心理的な好感度が高いことが明らかになった。既往研究により、癒されるといふ感情は好きという感情とほぼ同じであることが示唆されている³⁾。本研究においても、好みの休憩場所の方が心理的な好感度が高い。このことから、好みの休憩場所の方がより心理的に癒されていると考えられる。加

図-5 休憩場所における印象評価

えて、心理的な好感度が高い休憩場所は、同時に景観と雰囲気も優れていることが明らかになった。また、緑地の景観を評価した先行研究においても、特に空間評価の因子と雰囲気の因子が大きな割合を占めることが示されている⁴⁾。このことから、緑地における要素の中でも景観と雰囲気が特に重要な要素であり、これらの要素が利用者の心理的な好感度に大きな影響を及ぼしていると考えられた。

これらの結果と考察を総合すると、緑地における休憩場所にて心理的效果を効果的に享受するには、雰囲気と景観の優れた休憩場所にて休憩をとることが最も効果的であると考えられる。また、休憩場所に求める要素、休憩場所を決定する際に重視する要素も同様に雰囲気、美観、景観が挙げられることから、今後は雰囲気・景観といった要素をより詳細に調査することが求められる。

引用文献

- 1) 岩崎寛(2009)人と緑化空間, 空気調和・衛生工学会, 84(3): 185-190.
- 2) 岩崎寛・山本聡(2007)高速道路休養施設における緑化空間が利用者のストレス緩和に与える効果に関する研究, 日本緑化工学会誌 33(1): 255-257.
- 3) 谷口小百合・張格瑋・相田明・鈴木誠(2003)庭園景から受ける癒しのイメージに関する調査研究, 東京農大農学集報 48(3): 115-127.
- 4) 三浦利夫・飛岡次郎(1993)緑空間の心理的機能と評価法に関する研究, 造園雑誌 56(5): 235-240.

(2012.7.6 受理)